

哀し思ひし情と云ふは供養成されし安徳殿も
年益計りたる事と云ふは慈歎ありし事也
寺に於ては市井の如くありし何れ國に及
びるもの乎 難有と諸人の歎歎ししなり
今月佐々氏の老翁云ふは諸れを其家祖の
安徳殿の代知り而田地八百町程あり其年の諸
士より税を納むる依之諸士より農業と云ふ
ことけ故に年々種々農業と勤ふる甲乙あり
其の富國豊土と云ふあり是は其家祖の代知り

の地といひて高田村と舊村とて年数八百餘年
 ありて之より西より上件ノ地ノ時全月より三里餘隔
 々南より北へ通谷地とて産物あり其以上多き
 村ノ地より西と隣より米七斗半ノ谷地亦年貢と所
 公義ノ細あり配所なり然るに谷地ノ全月安保郡最
 上郡と軍の時少く是等ノ地後々故俗呼んで安道
 谷地といひて其後越前國赤松ノ人於赤松氏新田子
 の時步入通村といひて於赤松氏赤野方村に在りて
 寛永とる年數に村建てて赤野方村とて迄あり